

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(0888)33-4394 FAX(0888)33-7373 <http://www.inforyoma.or.jp/tosako/>



五〇年目 の春

土佐高を卒業して五〇年を迎えた二〇〇二年の春、二七回生の有志の方々が母校を訪れました。当時の面影はなくても、やはり母校はなつかしく、五〇年前にタイムスリップしたかのように思い出される数々の出来事、友人・恩師たち……。大嶋先生の胸像の前で記念撮影をしたり、思い出話に花が咲いたり、母校で楽しいひとときを過ごしたことでした。

来春、卒業五〇周年を迎える二八回生の皆さん、母校で同窓会を開かれてはいかがでしょう？

母校校長就任 ご挨拶

学校長 池上 武雄



盛夏の候、同窓生の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は母校の為に何かとご支援を賜っておりますことを有り難く厚く御礼申しあげます。
さて、この度晴天の霹靂と申しましようか「土佐中・高等学校長をやれ」という要請を宇田理事長からいただきました。浅学非才を省みず今こ

そ報恩感謝を実践すべき時と思ひ定めて、有り難くお引き受けした次第です。
発表以来多くの同窓生の皆様から、激励のお言葉を頂戴しましたこと誠に有り難く御礼申し上げます。
昭和二八年、土佐高校を卒業以来、実に四九年目にして母校に帰ってくるなどということは夢想だにできなかったこと、四三年間の銀行生活を

終え、老後を妻や孫達とゆつくり暮らしたいなどと怠惰な気分浸っておりましたが、今度のことで一変いたしました。

天罰観面とでも申しましようか、目下は新天地での厳しい学校運営に四苦八苦いたしておるのが現況です。

とは申しましても大変楽しいこともございます。孫のような生徒達の生々とした瞳を見ますと、思わず元気が湧いてきて頑張らなくてはならないことになるから不思議です。

学校長として新しい生活が始まりましたが、まず先生方の話される学校用語が分かりません。諸行事についても、学校長の役割を一つ一つ確認しなければなりません。

学校行事の全てが、学校長挨拶や式辞で始められます。新学期に入ってまず最初の仕事は、入学式における学校長式辞であり、本校は中学併設ですので、午前高校、午後中学とそれぞれ分かれた式典となっております。

もともと難しいことを話すのは嫌ですが、そうは申しましても新入生にとって短くとも印象に残る話を、と考え

ますとなかなか良い知恵は浮かびません。そのかわり歴代の校長先生のお顔が浮び、その偉大さを痛感するともに改めて身の未熟さを思い知った次第です。

新校長の抱負をいつも聞かれますが、就任のプレス発表の時に、高知新聞社の大野泰士記者（70回生）が、私の思いつくままの話をうまく纏めてくださいました。

「突然の要請で驚いたが、母校に恩返しをする気持で、愛情を持って子ども達の資質を磨き、自立精神の強い生徒を育てていきたい。」

教育界での経験はないが、礼節を尊び、文武両道を目指す伝統を引き継ぎ、活力のある学校づくりに全力投球する」というもので、全くその通りの気持に尽きます。

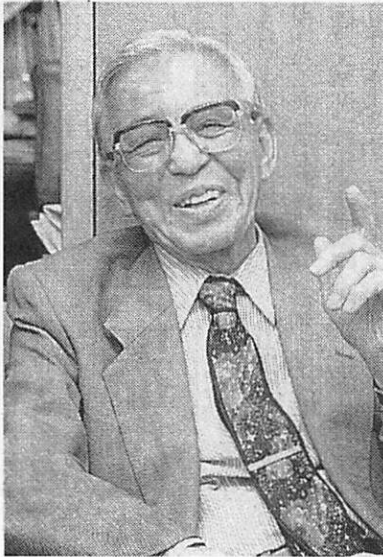
これから私に課せられた最大の課題は、現在討議が進められていきます「百年委員会」と「TSL委員会」の提言を受けて、その提言をいかに着実に実行、具体化するか、だと考えております。また提言を待つまでもなくすぐにも実行してゆかねばならぬことについては、学校長の責任にお

いてタイムリグを失せず実施に移してゆくべきものと考えております。例えば、「百周年記念行事特別会計」で、来るべき記念行事への予算積立を今からしてゆくことが大切と考えております。またその寄付金に対しては免税手続も準備しておくべきものと考えております。

また先生方の研修につきましても、振興会、同窓会のご協力を得て、すでに本年度の予算計上は出来ておりますので、本年度は国体行事等色々な幅鞆があってもチャンスを見逃さず積極的な参加を進めたいと考えております。

最後に、昨年同窓会長を仰せつかっておりますが、先般の支部連絡会議（三月二十三日大阪）で任期中は会長職を全うせよとお話をいただきましたので、役員の皆様のご協力を得て務めさせていただきます。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが何卒よろしく願ひいたします。同窓生の皆様のご健勝とご多幸、ますますのご活躍を祈念申しあげご挨拶いたします。以上

元文部事務次官
宮地 貫一さん(74)



「私がやってきたことは小さいことばかりなのに、勲章とはなあ」。とことなくはつの悪そうな表情を浮かべ、「勲章はまだぞぐわないかもしれない。もつと人間が枯れ、ないからね」。

昭和二十七年に文部省に入ってから現在まで、ずっと教育に携わってきた。事務次官で退官した後、放送大学理事長や世界大学総長協会会長などを歴任。現職は衛星通信教育振興協会の理事長で、本県でも学校法人高知工大の副理事長を務める。なかなか自由身にはしてくない。

「好奇心が強いから、未知の

勲二等旭日重光章

可能性を引き出そう

仕事を頼まれるとつい、やってやろうという気持ちになるね。ぼちぼち仕事を片付けなきゃならんと思ってるんだけど、どんどん舞い込んでくるね」

半世紀近い歩みが導いた結論は「詰め込みではなく、子供の可能性を引き出す教育が大事」ということ。「その意味では国の学習指導要領にこだわらなくてもいい。地域地域で工夫を凝らせばいいんです」

現場を重視する姿勢、柔軟な発想で、きょうも教育を見守っている。

「教育の力、感化力は大きいのです」と話す宮地さん(東京・虎ノ門の衛星通信教育振興協会)

▲11月3日高知新聞

秋の日に栄誉の結実

▼11月2日高知新聞

(7) ☆☆ 特集 2001年(平成13年)11月2日(金曜日)

宮地貫一同窓会関東支部長(21回)が勲二等旭日重光章を叙勲、岡村甫前同窓会会長(32回)(高知工科大学長・東京大学名誉教授)が紫綬褒章を受章されました。

紫綬褒章

高知工科大学長

岡村 甫さん(63)



「年をとるほど研究能力が上がっていく感じがする」と話す岡村さん(香美郡土佐山田町の高知工科大)

世界が認める「趣味」

認めている。現在は「自然と共生する

学長に就任した四月以降も教授として学生の指導に当たる。「二足のわらじ」だが、「研究は趣味ですから」と笑う。

「後半の集大成」は、平成五年に発表した高性主観。運がいい面もあり「前半の研究人生の集大成」という、地震下の

構造物の損傷過程を高精度で追跡できるシステムに、学生とともに少子高齢化社会への対応を研究。畑違いの学問のようにも感じられるが、根本にある考えはコンクリート研究と何ら変わらな

「後半の集大成」は、平成五年に発表した高性主観。運がいい面もあり「前半の研究人生の集大成」という、地震下の

構造物の損傷過程を高精度で追跡できるシステムに、学生とともに少子高齢化社会への対応を研究。畑違いの学問のようにも感じられるが、根本にある考えはコンクリート研究と何ら変わらな

「後半の集大成」は、平成五年に発表した高性主観。運がいい面もあり「前半の研究人生の集大成」という、地震下の

構造物の損傷過程を高精度で追跡できるシステムに、学生とともに少子高齢化社会への対応を研究。畑違いの学問のようにも感じられるが、根本にある考えはコンクリート研究と何ら変わらな

百年に向けて

校内委員の取り組み

委員 小村 彰

創立八〇周年を機に、これからの土佐中・高のあり方を考えることを目的として、百年委員会が設けられました。

岡村甫高知工科大学長を会長に、理事会・同窓会・振興会などから入られた方、および教員からも一〇名（発足時森本教頭・島内・小村の三名、後日増員土居・得竹・鎌田・西・前田・戸梶・手島の七名）が委員として加わって、これまでに四回の会を行ってきました。

いずれの会においても、幅広い視野を持った建設的な議論がなされており、最終的な結論までには、今しばらく時間が必要ですが、委員会のごこまでの取り組みの中で、教員メンバー（校内委員）が中心となって行ってきたことについて、簡単にまとめておきたいと思います。

一、校内委員による

学校見学について

今後の学校運営の参考にするために、昨年一〇月一五日から五日間にわたって、関東・関西で、とくに進学面で実績を残している合計七校の学校の見学をさせていただきました。

それぞれの学校で学ぶところは非常に多かったので、まず公立高校として現役の東京大学合格数全国第一位を誇る茨城県立土浦第一高校では、「一分を大切にする授業」と生徒会活動を保障する時間の組み方に驚かされました。同時に、文化財に指定されている伝統のある建物と、それとのバランスをとった様式の新築の自習館にうらやましさを感じてしまいました。

これとは対照的に、創立後日が浅く、これまでに卒業生を三回出しただけの新進の神奈川県県立公文国際学園は、「リベラリズム」を旗印に、制服も校則もない学校づくり

を進めています。生徒への粘り強く細やかな対応から生まれてくる教師と生徒の信頼の絆が、進学成績にも反映されているようです。なにより、生徒の笑顔の多さがとても印象的でした。

さらに、中堅校からトップ校へ躍進しつつある都内の私立城北学園中・高は、二学年ずつ三つの期にわけ、それぞれの期の生徒の状況に応じた目標を設けて、その達成を図るという方法が功を奏したとのことでした。

逆にトップ校としての地位が定着している私立駒場東邦高校は、本校同様の生徒指導上の問題を抱えているということと親近感を覚えましたが、生徒の目標の高さの一方で、中学時代に実験や読書、武道を重んじるなど基礎固めに多くの時間を費やしていることがわかりました。

関西では、まず京都の私立洛南高校。徹底した生活・行動の管理を行い、学習についても細かな指示を徹底して守らせることで、大きな進学実績を残しています。一方で全国トップレベルにあるクラブ活動に重点的に取り組む生徒

には、その環境を保障するなど、分業体制を確立していますが、いずれについても教員の献身的な努力がその支えになっているようです。

滋賀県トップの進学校である県立膳所高校もクラブ活動が盛んで、今年のインターハイに七つのクラブが出場しています。恵まれた施設を十分に生かしていますが、勉強との両立はやはり悩みの種のようにです。この学校の取り組みで目を引いたのが、生徒実態調査と小論文指導です。本校でも取り入れていきたい内容でした。

最後に訪れたのが岡山白陵高校。わざわざ静かな田園地帯を選んで校舎を建てたと言っただけに、生徒を誘惑するようなものは一切ない環境のもとで、中一から毎日七〇分授業を五時間行っています。個人的でバイタリテイあふれる校長・教頭に率いられ、大きな成果をあげています。どの学校もそれぞれに工夫しつつ、教員が研修と努力を重ねて大きな成果をあげています。

ただ、一方で、土佐のよさに改めて気づいたという面もあります。土佐だからできること、土佐にしかできないこともあると思います。取り入れるべきことは取り入れ、さらに発展させていくことを見学に参加したメンバーが互いに確認しあったことでした。

二、生徒実態調査

について

よりよい学校づくりを考えるためには、生徒の実態を把握する必要があるという百年委員会の合意に基づき、振興会の役員のご意見も参考にさせていただいた上で、校内委員で調査項目を作成し、一〇月上旬に中一から高三までの全クラスで実施しました。

全部で一六三〇名から回答が得られました。全校規模でこの種の調査を行ったのは、本校としてはおそらく初めてのことで、調査項目の作成から実施、集計と手探りで進めましたが、いろいろと参考になる資料を得る事ができました。

調査項目は、小学校時代の通熟状況から始まって、現在の学習状況や学校に対する思いまでさまざまですが、例え

百年委員会が

目指すもの

委員 市川 直介

最近、私的な用事でよく高知に帰省します。そして、時間があれば、自然と土佐校の新グラウンドに足が向きます。グラウンドの外から、時間の許す限り、野球部の練習やサッカー部の練習を見ます。

二〇数年前、中学野球部時代には、亡岡村熊長監督に野球の厳しさを教えられ、家に帰ると自分なりに一生懸命勉強もしました。高校野球部時代には、籠尾良雄監督の指導のもと、高知県でナンパーワンの進学校でありながら、片田統途君（現在NTTコミュニケーション）と伊藤滋宏君（現在東京電力）の若き一年生投手の活躍等で夏春と甲子園に出場するという得難い経験をしました。

私は現在、約百名の弁護士が所属する森綜合法律事務所（東京都千代田区）のパートナー弁

護士として、企業再編や大型倒産などホットで重い仕事で忙殺されています。

私にとって、土佐校を卒業したことは誇りです。自由闊達な雰囲気の中に、勉学のみならずスポーツや芸術等の分野でも最高のものを目指す、こんなすばらしい学校は、全国でもまず無いと思います。

しかし、時代は激変します。一〇年、二〇年先を考えず、場当たり的な一時の利益に溺れた企業は日本有数の都市銀行やメーカーであっても、姿を消しています。教育現場も同じです。

国際競争の波が押し寄せる中、ブロードバンド化やグローバル化に加え、高知市・高知県を含む日本の財務状況の劣悪さは、私立学校に対して厳しい試験を与えると思います。

この状況の中にあって、現役の土佐校生も、またこれから入学されるお子様が、いつまでも「冠する土佐の名に叶え」と校歌を高らかに歌い、かつ国際社会の中で自分の夢を実現し活躍できる青年として輩出できるよう、二〇年後の土佐校を考えな

がら（とても難しい課題です）知恵を出し合い、ビジョンを策定するのが、百年委員会の目指しているものです。

百年委員会は、平成一三年一月三十一日の顔合わせを入れると、今日までに四回会合をもちました。しかし、四回目の会合でやっとまともな議論が出来はじめたのが、現状です。亀より遅いかもしれませんが、参加している学校の先生方も目の色が変わってきています。

この委員会で決まったことは、理事会に報告され、今日から出来ることは二〇年後を待たず実行されると聞いています。

最後に、この委員会は、絶対に血の通ったものにしなければなりません。学校と振興会と窓会が一体となって、土佐校を導く必要があります。

国見振興会会長をはじめ、振興会の皆さんの知恵や協力が必ずや要です。

このような寄稿の機会を与えていただいたことに感謝いたします。今後ともよろしくお願ひいたします。

（振興会たより）より転載

ば、通塾率は中一で三分の程度、高二で半数を超え、高三で三分の二程度ということが明らかにになりました。

この数字をどう見るかは、それぞれ違うでしょうが、少なくとも大都市の進学校の数字から見れば、高二・高三の割合はかなり低いものとなっているようです。また、「先生は信頼できる」という項目で、「強くそう思う」と「かなりそう思う」の合計が三二％であるのに対して、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計は二八％です。すこしでも、「信頼できる」という割合をあげていくことが求められています。

今後、より詳しく分析し指導に生かしていくことが必要ですが、その際、学年による変動が重要になってきます。

この学年による変動も、二面があり、ひとつは生徒の成長・発達に伴う変化であり、ひとつはその当該学年の特色というべき点です。前者は例えば中三・高一で学習時間が減少するといういわゆる「中だるみ」現象がその代表でしょう。後者については、例え

ば今回の調査で一週間のマンガや雑誌を除く読書時間についての問いに、「ほとんどしない」と答えた割合が、他の学年は四〇〜五〇％以上であるのに、中二だけは二四％と、きわめて低くなっているというのがその例でしょう。読書を積極的に勧める学年全体の指導の成果と考えてよいと思われまます。

こうした面を考えていく上でも、調査項目の取捨選択を行った上で、今後毎年このような調査を行っていくのが望ましいという意見が出ております。学校見学で訪問した中にも、この調査を有効に生かしている学校もありますので、その方向で検討していきたいと考えております。

以上、これまでの取り組みについて、述べてまいりましたが、改めて学校のことを考えてみると、改善すべきこと・改善しうるものがたくさんあることに気づきます。

保護者・同窓生の皆様のご協力も得ながら、土佐のよさを活かせる学校の改革に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

百年委員会中間報告

一、はじめに

本校は、「高等教育を受けるに十分な基礎教育に力を注ぎ、卒業後は進んで大学に進学させることを期して、生徒天賦の能力を発揮させ、自発的修養に努めるようにする」ことを教育目標として、過去80年間にわたって多彩な人材を輩出し続けてきた。

わが国の少子、高齢化の進展、世界のグローバル化と高度情報化社会の到来などによって、家庭や大学、企業のあり方も大きく変わっていく。

本校創立以来の良き伝統を正しく受け継ぎ、更なる発展に向けて、施設、管理運営方法、教育方法などについて再検討する時期にきている。

二、西暦二〇二〇年に新校舎を建設するための準備を開始するに当り、以下の事項を検討

(1)設置場所と建設手順
次の三つの方法について検討する。

- ・現在地に建て替え
- ・新グラウンドに新築

・他の場所に新築……土地の交換なども含め考える。

(2)施設設備(教育方法と関連)

多目的ホールや同窓会館の設置も検討する。

(3)資金の調達方法

三、管理運営方法

(1)寄付行為を改正し、二一世紀にふさわしい理事会とする。

・理事定員数を増加し、若手を活用

・相続人理事規定の是非を検討

・教職員選任規程を設定し、優秀な人材の確保

・教育施設設備を充実していくシステムを作成

・教育内容の充実に見合う授業料とし、奨学金制度を強化

・適正な生徒数を検討

・学校が直接関与する本校生対象の学習塾の設置を検討

・小学校の併設を検討

・校長の任期を定める。

(2)校長の権限と責任を明確にする。
・本校の教育目標を策定し、公表

・その教育目標を達成するための教育方法、手段等を策定

・効率的な学校運営

・教職員の継続的自己啓発プログラムを作成

・入学選抜方法、広報活動および進学指導方法を充実

四、創立一〇〇年における教育目標および教育方法

西暦二〇二〇年にどのような新校舎を建設するかは、それ以後における教育形態によって大きく異なる。また、どのような教育形態にすべきかについては、本校の教育目標および教育方法とのかわりが多い。そこで、その検討を開始した。以下は主として校内委員による意見を集約したものである。今後の検討の参考に供したい。

(1)教育目標は、「自己の能力・可能性を生かして、自己の未来を切り拓く力を備え、それを生かして社会に貢献でき、世界で活躍できる人間となることのできる十分な基礎を養成する」ことである。そのため、以下の能力、態度を育てる教育方法を策定する。

・自らの能力を伸ばし、個性を発揮することに喜びを見出し、それを継続しようとする態度

・理解力、思考力なども含めた学力

・自分の考えを適切に他者に伝えることのできる表現力

・新たな企画や方法を生み出す企画力・創造力

・自分の個性を生かしつつ、他者と協力して目標を達成しようとする態度

・他者との関係に配慮して、その場にふさわしい行動をとる品位ある態度

(2)教育目標を達成するための教育方法として、以下の事項を早急に実現する。

・中高一貫の特長を生かした効率的なカリキュラム(生徒が成長する仕組み)

・生徒各人の長所を見出し、それを伸ばせる教育システム

・高度情報化社会における教育方法

・グローバル社会に対応する教育

・クラブ活動の意義の明確化

・興味を持たせるための教育手段の開発(社会の実際を知る機会)

・自己の個性を生かして目標を達成しようとする態度

・理解力、思考力なども含めた学力

・自分の考えを適切に他者に伝えることのできる表現力

・新たな企画や方法を生み出す企画力・創造力

・自分の個性を生かしつつ、他者と協力して目標を達成しようとする態度

・他者との関係に配慮して、その場にふさわしい行動をとる品位ある態度

(2)教育目標を達成するための教育方法として、以下の事項を早急に実現する。

・中高一貫の特長を生かした効率的なカリキュラム(生徒が成長する仕組み)

・生徒各人の長所を見出し、それを伸ばせる教育システム

・高度情報化社会における教育方法

・グローバル社会に対応する教育

・クラブ活動の意義の明確化

・興味を持たせるための教育手段の開発(社会の実際を知る機会)

(3)具体例

・基礎学力の徹底と個性に応じた豊かな学力の育成を目指す指導

・情報処理能力の育成のための全校的取り組み

・表現力の育成を目指した各教科での取り組み

・個性を生かした多様な活動を通じての自己形成

・他者を尊重する態度の育成

・教育機器の充実等による教育方法の改善強化

五、効率的な学校運営

(1)校務分掌の検討

・事務と教員の業務分担

・教員間の業務分担

・主任と副主任、学年主任や教科主任の位置づけ

(2)学年団の構成や持ち上りの是非についての検討

(3)会議の効率化の検討

・校内LANの整備による情報の共有化(コンピュータ委員会で検討中)

(4)振興会および同窓会との協力の関係の強化

六、教職員の継続的自己啓発プログラム(TSL委員会)

七、入学選抜方法、広報活動および進路指導方法

- ・積極的な広報活動を行うための専任職員の設定
- ・サーバーを設置し、入学・学習・進路に必要な情報等を整備
- ・HPの充実

- ・学校説明会や塾・学校へのPR方法の検討
- ・現行入試制度の総括の上に立った入試方法の見直し
- ・一貫した進路指導計画のもとに、多面的な進路指導
- ・受験勉強の効率化

(平成14年1月31日付)

T S L 委員会中間報告

T S L 委員会(理事会直属)

(教員研修プログラムの運用)

- 会長・宮地貴一(21回)
- 委員・森田幸雄(校長) 野崎りつ、北村恵美子、南範子(以上振興会)、森木将雄(32回) 森木房恵(39回)

- 校内委員・浜岡俊充、河野浩、山本浩文、門田美和、矢野泰久、三浦浩二

経過

二〇〇〇年に創立八〇周年を迎えるにあたり、記念事業等実行委員会(学校、同窓会、振興会代表)において各種記念事業、記念行事が検討された。その中で、八〇周年年度の事業だけでなく、今後の土佐中高の発展

また、次会からは各委員会に分別して報告することとなった。

活動

- 第一回 T S L 委員会
三月二三日(火)
- 第二回 T S L 委員会
五月二九日(火)
- 百年委員会・T S L 委員会アンケート実施(対教員)

T S L 委員会ヒアリング

- 七月一〇日(火) 高三主任、副主任
主任 中三主任、副主任
- 七月二一日(水) 高二主任、副主任
主任 中二主任、副主任
- 七月二三日(金) 高一主任、副主任
主任 中一主任、副主任
- 第三回 T S L 委員会
九月二八日(金)
- 第四回 T S L 委員会
一〇月二二日(月)

研修のあり方

教育は生徒の自己成長能力の育成である。生徒の学力、資質の向上を図る上には、教員の情熱と意欲が不可欠であり、主体的な関わりを求められる。生徒の学ぶことに対する意欲を引出し、それに応える力を要求される。そのためには単に教科内容・教授法だけでなく、広く

社会の動向に触れること、人間性の幅を広げることが重要である。教員の自己研修の必要性は当然であるが、資質向上を図る機会を増やすことや研修制度の確立が必要である。

現状と問題点

教育委員会、私学団体やその他の機関の主催のものが校務出張となる。その他の研修会等は自費または組合からの補助金で参加しているのが現状である。また、校内研修は一部を除き、ほとんど実施されていない。

研修の実施にあたり最大の問題点は、教員に時間的余裕のないことである。近年、教員の仕事量はますます増加している。生徒の生活指導、クラブ指導はもとより模擬テストの増加、各学年の保護者会、学年通信・クラス通信の増加、各種説明会等々、教員によっては休日も十分にはとれないほど多忙化している。この問題の解消には、次のような点が緊急に、しかも全校的な取組みとして必要である。

1. 校務分掌の再検討―各部の統廃合。広報部の新設。
2. クラブ顧問のあり方の再検討―同窓生など校外ボランティアの応援を求めることなど

考えられるが、責任問題等の検討が必要。

3. 教職員の適正配置―専任教員の増員。長期的視野にたつ採用。
4. IT化―現在コンピュータ

1 委員会で検討中。

5. 校外の人的資源活用―講演会、研修会講師等に同窓会、振興会の協力のもと人材バンクの構築。教員研修時などに特別非常勤講師バンクの構築。長期的には学校の適正規模(生徒人数、教員数、財政規模等)や学校制度(教育方針の再検討、六年一貫カリキュラムの検討等)など将来のビジョンにも関する問題もあり、百年委員会での議論をうけ、できることから速やかに実施すべきである。また、現在振興会でも教員の負担軽減のための方策を討議していただいている。

評価について

視野を広げ資質向上をめざす研修には、教員自身が目標もち自主的にチャレンジを続けること、重点目標を出し自己アピールの場とするが必要である。その成果には、自己評価と共に他者からの評価を受け、評価のフィードバックをはかるシステ

平成14年大学入試合格状況

国立				公立				私立						
大	学	現	浪	計	大	学	現	浪	計	大	学	現	浪	計
北海道	3	1	4		神戸市外語	1		1		麻布		1	1	
北弘		2	2		島根県立	1		1		奈川		1	1	
岩前		1	1		岡山県立	1	1	2		フェリス女学院	1	1	1	
東手	1	1	1		広島市立	1		1		中	1	1	1	
秋北		1	1		下関市立	1		1		名古屋女子	1	1	1	
茨田		1	1		北九州市立	1		1		南	1	1	1	
筑城	1	1	3		計	12	6	18		京都産業	2	5	7	
埼波	2	1	3		私立				京都女子	1	1	2		
玉	1	2	3		大	学	現	浪	計	京都薬科	1	1	4	
千	1	1	2		私立				京都橘女子	1	1	1		
東	3	1	4		岩手医科		2	2		同志社	12	8	20	
京	2	2	2		自治医科		1	1		同志社女子	2	3	5	
東	3	3	3		獨協医科	1		1		佛立	1	1	1	
東	3	1	4		獨協医科		1	1		立命	24	13	37	
東	1	1	2		獨協医科		1	1		谷		9	9	
東	1	2	2		千葉工業	1	1	1		大阪学院		2	2	
お	1	1	1		東京歯科	3	3	3		大		2	2	
電	3	3	3		青山学院	5	4	9		大		1	1	
一	2	2	2		青学	1	2	3		大		1	1	
横	5	5	5		北慶	1	1	2		大		1	1	
信		1	1		慶應義塾	8	2	10		大		1	1	
静	3	3	3		国際基督教	2	2	2		大		1	1	
名	1	1	1		駒澤大学	1	1	1		大		10	6	16
古	1	1	1		芝浦工業	1	3	4		大		2	2	
滋	1	1	1		上昭	8	3	11		大		1	1	
京	9	3	12		昭和薬	1	1	1		大		1	1	
都	2	2	2		成専	1	5	3		大		1	1	
工	5	3	8		拓多	1	1	1		大		1	1	
大	6	4	10		中津	1	1	1		大		1	1	
神	6	4	10		東	3	3	3		大		1	1	
奈	1	1	2		東京女子	1	2	3		大		1	1	
和	1	1	1		東京電機	1	1	1		大		1	1	
岡	6	5	11		東京薬理	8	6	14		大		1	1	
広	4	2	6		東	2	2	2		大		1	1	
山	1	1	2		東	2	2	2		大		1	1	
徳	3	2	5		東	2	2	2		大		1	1	
川	1	1	2		東	1	1	1		大		1	1	
愛	6	1	7		東	1	1	1		大		1	1	
高	7	10	17		東	1	1	1		大		1	1	
知	8	6	14		東	1	1	1		大		1	1	
高	1	1	1		東	1	1	1		大		1	1	
宮	1	3	4		東	1	1	1		大		1	1	
鹿	1	2	2		東	1	1	1		大		1	1	
*防衛医科					東	1	1	1		大		1	1	
計	101	56	157		東	1	1	1		大		1	1	

ムも必要である。ただし、直接企業や大学の評価基準を持ち込むことには無理があり、本校独自の目的・基準を明確にし、評価と自己改革そのものを討議する場が欲しいとの意見もある。

研修資金

財源には、同窓会、振興会、学校が応分の負担をし、二〇〇二年度からの実施をめざしたい。

醸出方法、金額、運用方法等は今後検討課題である。

研修内容

1. 校外研修
 - 専門教科研究、指導方法、生徒生活指導など各種研修会参加。他校や予備校、各種施設等の視察。
2. 校内研修
 - 初任者研修会を系統的に実施。

研修の実施について

教科・校務分掌各部の研修は

1. 教科研修、研究授業等は積極的に行う。校内講演会(対生徒も含め)等を計画的に実施する。学力指導、進路指導、生活指導、大学入試問題の検討会等。

2. 国内外留学(遊学)や研究援助

形式的でなく、力量向上に真に役立つ研修会であることを前提に、職員の参加を積極的に助成する。また、参加希望者の研修会に対する評価が他の教員と食い違う場合もあり、学校の教育方針との関連も考慮する必要がある。

以上の点をふまえ、各教科・各部に年間予算を与え、教科主任・部長の責任で計画書を提出

し自主的に運営する。研修内容を関係教科・部で報告し、TSL委員会にも概略を報告する。校内研修は年間三回程度の講演会(対生徒も含む)を計画し、予算化する。

国内外留学や研究費補助等は本人がTSL委員会に申請し理事会の承認を得る。実施細目は今後の委員会で決定する。

(平成14年1月31日付)

公立				
大	学	現	浪	計
東京都立	2		2	
横浜市立	1	2	3	
静岡県立	1		1	
名古屋市立		1	1	
京都府立	1		1	
大阪市立	1		1	
大阪府立	2			

公立				
大	学	現	浪	計
大阪府立	19	10	29	
徳島県立	8	6	14	
高松市立	8	9	17	
明治学院	1	2	3	
立	7		7	
早稲田	2		2	
本	8	5	13	
日	8	9	17	
法	1	2	3	
明	1		1	
立	7		7	
立	2		2	
早	19	10	29	

(9)

平成14年度 クラブ活動の記録

高校県体

弓道… [男子] 団体：優勝 (17年ぶり、10回目)

*男子団体はあと1試合を残して土佐と高知がともに3勝1分け(勝ち点7)で並んだ。まず高知が、県内の試合ではほとんど例のない19中をだして土佐を追いこむ。プレッシャーのかかる中、土佐は中村との最後の試合で14中を決めて決勝射詰め競射に持ちこみ、大前から4人連続の中で高知を突き放した。

水泳… [男子] 対校得点：1位/50m自：1位/100m自：2位
200m自：2位/200m平：1位/200m個人メドレー：2位
400mリレー：2位/800mリレー：1位

登山… [男子] 2位

テニス… [男子] 団体：2位
[女子] 個人単：3位

自転車…スプリント：3位/4km速度：3位/ポイントレース：3位
エリミネーション：3位/チームスプリント：2位
4kmチームパーシュート：3位

野球… 2位

文武両道

中学市体

ソフトボール…優勝

*西部に9-2、学芸に11-1と圧勝。県体に期待がかかります。

バドミントン…

[男子] 団体：優勝
個人単：1位・2位/個人複：3位

テニス… [男子] 団体：優勝
[女子] 団体：優勝/個人単：2位

陸上… [男子] 400m：1位/800mリレー：1位

[女子] 低学年走り高跳び：1位/走り幅跳び：1位

サッカー… 3位

水泳… [男子] 総合：2位/200平：1位
[女子] 50平1年：1位

四国大会

弓道… [男子] 団体：優勝

(12年ぶり2度目)

(11) ☆☆ スポーツ 2002年(平成14年)6月17日 (月曜日)

高知新聞



【男子団体決勝】14中を定め、12年ぶりの優勝を挙げた土佐。左から杉原、樋田、小林、高田、松木(県弓道場)

【剣道男子団体決勝 高知(帝京五) 先鋒戦、高知門脇(右)が激しく射りこぼす(磐平高)

男子土佐12年ぶりV

「前と後ろ

チーム

「調子が悪い選手がいれば、ほかの選手がカバーする。みんなの力で優勝できた。県体で優勝できたことが、四国につながった」と成長を喜ぶ岡峯監督。
ベスト4には、土佐と同中競射で団体優勝を挙げた高知も上がっていた。もはや、県勢決戦かと思われたが、しぶとい小松島西が強さを見せ、高知を破って決勝進出。
土佐は予選も32中、1位。決勝トーナメント1回戦は12-9で大洲を下し、集力を増した高知決勝は15-10で前評判の強い松山工に快勝。勢いに乗ると、決勝もプレッシャーに

▽男子団体予選(40射)
①土佐32中②松山工30中③中村28中④高知、今治南、小松

島西25中⑤大高⑥城ノ内、高松南、那賀18中 (8位まで)

井の活躍が光

高校修学旅行 (コース別研修)

平成12年度 高1 修学旅行団



高校の修学旅行は昭和二七年五月、四泊五日の日程で別府・阿蘇方面に行ったのが始まりです。昭和四一年には初めて関東方面に行き先が変わり、昭和四五年からは中学での修学旅行がなくなりました。平成二年二月、スキー研修が始まり、中三で修学旅行が復活しました。平成一二年からは、スキー研修にコース別研修を加えた、新しい形で修

学旅行が実施されています。コース別研修では、東京周辺で活躍されている本校卒業生に大変お世話になっていきます。これも土佐校だからできる、いや土佐校でしかできない研修旅行だといえます。昨年度も、一月一八日、各コース大きな成果をあげ、無事終了することが出来ました。本来のお仕事で大変忙しい時間帯にもかかわらず、皆さん

高校生の目線に立つて、真剣に語りかけていただきました。実際の現場で努力されている方のお話は、他の誰の言葉よりも重みがあり、これから自分の行く末を真剣に考え始める生徒たちにとって非常に示唆に富んだものがあつたと思います。また、本校の卒業生が各方面で頑張っていることもわかつたことと思います。

当日ホテルに帰り着いてその場で書いてもらった感想文は、疲れているにもかかわらず、ほとんどの人が用紙いっぱい感性を埋め、「将来のことを考える上で大きな参考になった」、「生涯の糧になった」、「将来の夢を見失ってしまいそうになった私にとって、今回のコース別研修は、また私に目標をくれました」など、単にためになったという以上の言葉が数多く見られました。これらの感想文からいくつか抜粋してみました。

① 文学・歴史コース

(東京大学・三省堂・江戸東京博物館) 始めに、一通り辞書・教科書の作成についてお話ししていただきました。今まで漠然としか考えていなかった出版という仕事は「とても

も奥深い」と思いました。編集部も見学させていただきました。生の編集という仕事に触れることができて、とてもうれしかったです。これから、この研修を生かして、「本」との向き合い方を変えようと思えます。

② 法学・政治コース

(弁護士会館・国会議員会館・国会議事堂・憲政記念館・国会図書館) 裁判での人間の性、今考えてできる将来への行動、そして目標を持つて生きていく大切さ、すべてが自分にとって新たな要素になったと思います。将来だけでなく、今の生活を少しずつ変えていけるような、そういう気分になりました。あと、土佐にはこんな素晴らしい先輩たちがいるという誇りがもてました。先輩たちは皆、本当に自分の考えを持ち、自分で決めて生きていくという当たり前のことなだけで、普通の人たちには決して真似ができないライフスタイルを実現させていました。

③ 経済・経営コース

(東京証券取引所・日本銀行・貨幣博物館・早稲田大学)

④ 社会・マスコミコース (学習院大学・警視庁・東京放送)



⑤ 国際関係・外国語コース (国際連合大学・上智大学・青年海外協力協会)

最も印象に残ったのは、青年海外協力隊として活動されていた方の話だった。入隊されたきっかけが、自分も普段考えているような、ふとした疑問から始まっているということを知り、とても身近に感じられた。現地の話も興味深かったが、一番心に留まっているのは、「大切なのは、物事にどれだけリアリティを感じられるか」ときいたことだ。

振興会の現況と活動

会長 国見 直樹

土佐高同窓会の皆様、同窓会の隆盛に敬意を表させていただきますと共に、将来の同窓生として土佐に子供を通わせている保護者の会である振興会の現況をお知らせいたします。

もちろん、今年学校での一番の出来事は、同窓会長であられた池上武雄氏を校長先生としてお迎えできた事です。創立八〇余年、土佐高卒業生はすべて同窓会員であるわけですが、在校された時代の校長先生により、やはり在学印象は異なっているものと思います。校長先生は単に学校長であるのではなく、時代、時代を作る存在なのだと思います。三根校長、青木校長、大嶋校長、曾我部校長、松浦校長、森田校長とそれぞれ土佐の一代を築きました。それぞれ時代に在りされた卒業生は、それぞれの時代を懐かしく思い出される事でしょうが、池上校長先生も土佐の百周年に向かつて、素晴らしい時代を演出なされる事と期待しております。

池上校長先生と懇親会や話し合いの場を持ち、我々振興会役員は全面的な支援を約束いたしました。先生のお考えは我々が常日頃より学校にお願いしていた事を、すべて理解して頂いているように感じられ、今後の運営に期待するとの総意が形成されております。

子供たちは次々と卒業し、同窓会員となります。振興会の役員もそれぞれ役目を果たして去って参ります。今年も大幅の役員改正がございました。以下に今年の役員名を列記いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

振興会役員名簿

(平成14年5月)

会長	国見 直樹
副会長(広報)	杉本 雄一
副会長(進学)	山本 志雄
副会長(総務)	北村恵美子
監事	毛山 章
監事	徳永 俊一
評議員	竹村 晴光
評議員	田中佳代子
評議員	中澤 陽一
評議員	西山 彰一
評議員	南 範子
事務局	千頭 裕

いつもテレビに映っている東京を実際に見たことで、やっとならゆる事に現実感が出てきたところだったので、この言葉がとても胸に残っている。

- ⑥工学・建築・土木・金属コース(鹿島技術研究所・東京湾横断道路・新日本製鐵君津製鐵所・東京都庁)
- ⑦物理・宇宙コース(宇宙開発事業団・筑波宇宙センター・高エネルギー加速器研究機構)
- ⑧電気・電子・通信コース



Ⅰス(NTT・先端技術総合研究所・青山学院大学厚木校・日本科学未来館)

今日の体験は将来につながる貴重な体験になったと思う。説明してくれた人は目がきらきらしていて、とてもこの仕事为天職なんだあと感じるほどだった。僕もそんな仕事をしたいと思う。次の世代の僕

たちがこれからの未来を作っていくかなくてはならない。

⑨化学・生物・薬学コース

(万有製薬つくば研究所・理化学研究所・サンシヤイン国際水族館) 日本に三つしかない実験室を見学させてもらいました。見学するのに、白衣を着た時は本当にドキドキしました。中に入っ

て、その構造や使用方法を聞き、実際に機械に触らせてもらったり、写真などを撮らせてもらいました。本当にこんなによくしてもらったいいのかなあと心配になるぐらいでした。

⑩医学・歯学・看護コース

(国境なき医師団・東京赤十字社東新宿献血ルーム・北里大学医学部病院) 今日体験学習したことで医学に対する気持ちがより高まった気がします。医学が進歩する中、治療技術も変わってきているし、それと並行して負傷・病気も変化しているのも事実です。人への接し方、それだけで様々な境遇の人と対応できる医師たちの思い。今日学んだことをこれからの将来に役立てていきたいです。

高知県野球界の大立者、溝
測峯男さんが他界されて半年
あまりが過ぎました。まさに
「巨星墜つ」、致し方無いこと
とはいえかけがえの無い方を
亡くしたことになります。

あれほどまでに野球道の原
点・基本を大切にされ、こよ
なく愛された方は広く見回し
ても減多におられるものでは
ないと思います。単に野球競
技にのみ心を砕かれたのでは
無く、高知県が温暖の地だと
して多くのプロ球団がキャン
プを張るようになった、その
蔭には溝測さんのお顔の広さ
と信望をもって熱心に誘致さ
れたことも決して忘れてはな
らないことです。野球の振興、
レベルアップは言うに及ばず、
経済波及効果をも呼び込んだ
ご功績に、今更ながら敬意と
謝意を改めて表します。

もう半世紀も前のことです。
昭和二十七年、選抜大会へ初め
て甲子園出場（池上校長が主
将・投手だった）出来たのも、
翌年選抜と夏の選手権大会へ
続けて出られたのも溝測野球
のお陰だったと思っています。
情熱と熱心さのあまり、その
愛の鞭が物議を醸すこともあ
りましたが、教えの原点はい

つの場合でも「基本に忠実に」
という理念に貫かれていまし
た。従って、小手先技術やフ
ェアでないプレーはご法度で、
常にセオリー重視の野球でし
た。

後年もそうだつ
たようですが大変
な勉強家で、しか
も謙虚な姿勢を終
生崩されることは
無かつたようです。
貪欲に知識とノウ
ハウを貪るように
吸収され続けてい
ました。「進取の
気性」を選手にた
びたび求めました
が、ご自身そのも
のであつたと理解
出来ます。その上
に熱血と暖かい心
を持ち、選手操縦
法も見事でした。

昭和二十八年夏、
優勝戦で松山商高
に敗れましたが、
そこまでつながつていく起点
と思われる出来事があります。
南四国大会前日の最も大切な
仕上げ練習の日、開始間もな
く全員集合命があり「練習中
止。みんな帰れ！」と。ドラ

野球に捧げた熱い心と血

——巨星・溝測峯男さんを偲ぶ——

永野元玄（29回生・昭和28年野球部主将・捕手）



ドラしていたのです。目が醒
めた我々から懇願してやつと
のことで再開をして貰い、見
違えるような状態になること
を得ました。この一幕がカン
フル剤になったと思っていま

山商戦においては「タイムを
一度かけさせておけば勝た
のに」と後年まで悔やんでお
られました。

裏腹に高知高を優勝に導い
た決勝戦（早鞆戦）では監督

就任四ヶ月、チー
ム内にトラブルが
多発するなど正直
言つて情が移るほ
どの一体感を持て
ないままの状態だ
つた訳ですが、頂
上を極めるために
試された作戦指示
は、初回に相手の
スキを見抜いたホ
ームスチールだつ
たのです。この試
合直後に「お前ら
のチームとだつ
たら、ホームスチ
ールなどは思い及
ばないことだつた
ろう」と私に話し
てくれたことは、
殊のほか印象的

す。
ただ、子飼いで情の移つた
チームでの采配は、ご自身仰
有つていましたが、選手と一
緒になってカーツとなり、し
くじることがあつたとも。松

した。冷静で敵情が手に取る
ように見えた訳です。
「燃えて冷静で」頂上を極
めることこそがこの恩師の念
願だったのでないでしょ
うか。そして、安芸・高知・宿

毛と情熱を傾けられた訳です
が、世に言う「渡り鳥監督」
とは無縁の純粹な伝道師とし
ての後半生だつたと思います。
なお、もう一つ触れさせて
頂きたいのは、現在の我が国
の野球に氾濫している「サイ
ン」などによる縛りと、そこ
から来る選手のロボット化傾
向は問題含みですが、師は指
導方針が逆でノーサイン的で
あり、従つて個々人に考えさ
せながら身に付けさせるやり
かたでした。二十八年、初戦の
金沢泉丘戦で記録した1試合
13盗塁の記録は半世紀を過ぎ
ても未だに破られておらず、
他の記録はすべて塗り替えら
れています。この試合の「盗
塁のサイン」は相手にも丸見
えの「走れ」の大きなゼスチ
ャーだつたのです。簡潔明快
でした。こんなことから選手
には知らず知らずの内に力が
備わつて行つたのだと思われ
ます。
晴れがましいことや目立つ
ことを最期まで退けられ、そ
れを貫き通された偉大な教育
者であつたことを今更ながら
思い知らされます。数々のご
功績に対して感謝するととも
にご冥福をお祈りします。



関東支部

事務局長 金澤由里
(55回生)

六月一日(土)〇時四八分のことである。「W杯も開幕したというのに、研究発表を五日に控えて、私ったら何やってるんだらう。誰か、弁護士が検事が建築家の旦那様



を探して下さい」62回のくみこちゃんから、司会用の原稿ができた、準備委員会メンバー全員あてのメールが届いた。受け取った人達のほとんどが、それに答える間もない約一〇時間後、国立オリンピック記念青少年総合センターに三々五々集まった。いよいよ、一五時間会の関東支部総会・懇親会に向けて準備開始である。

名札用ケースが足りない！ 徒歩一五分の駅前に使い走りさせられたのは、32回の同窓会本部副幹事長(東京在住)。原稿にピツシリメモ書きしていた42回の司会者。花を飾っていた42回の受付嬢。「いい子にしていれば、きつと誰かが旦那様を見つけてくれるに違いない」もくもくと一人で、プロジェクトを調整していたくみこちゃん。やがてほつほつと参加者達がやって来た。38回の前副幹事長の妻(土佐女子)、41回の筆山編集長の妻(土佐女子)、41回の前

事務局長の妻(市商)達も、同伴で列席である。いずれも噂に違わぬ美女ぞろい。さすが、31回生秦ルイヴィトン社長の講演の威力と言うべきか。今年の美女集客力はなかなかのものだった。

懇親会開始前には、校長先生、森本教頭先生、得竹先生、西峯先生、土居先生、古谷先生がお揃いになった。くみこちゃんは、先生の写真を撮るため会場を駆けずりまわった。アトラクションのクイズで、プロジェクトに先生の映像を映すためだ。「ディック・ミネ? 私らの時はそんなあだ名ではなかった」(53回生)「ダーリン? えー、イメージでない」(41回生)と先生の話しながら、世代間のギャップを埋める。先生各位におかれましては、こんなに遠くまでさぞかしお疲れでしたでしょう。行き届かないことばかりだったのに、懇親会では終始笑顔で過してくださいました。心から感謝します。

したピカピカの77回生四六名もいた。ピツッと背広着た男の子が多かった。おじさん達は普段着もいるのに、なかなかかわいいではないか! 彼らが21回の支部長に紹介されて全員壇上にあがった時、先生や先輩達は、とても温かい目で、頼もしい彼らを見つめていた。16回の最年長の先輩が、「シングルが来なくなりましたねえ」と席でつぶやいておられたが、大変満足そうな笑顔だったのが印象的である。

最後に皆様、才色兼備、氣立てがよくて働き者のくみこちゃんのために、優秀な旦那様を見つけてあげてください。美醜は問わずだそうです。詳しいお問合わせ先は、53回の市川幹事長のところまで。

東海支部

大高坂秀雄
(31回生)

五月二五日(土)、正午より名古屋駅前ホテルキャッスルプラザで、東海支部の総会を開催しました。

母校からは、教頭先生、本

部、各支部からも代表の方々、その上本年は、中部高知県人会会長、同常任理事のご参加を頂き、総勢四〇名程の総会となりました。

会は、時間の関係もあって、司会主催の簡単な挨拶の後、直に乾杯。来賓の方々のご挨拶は益を重ねながらお聴きすることになってしまい、誠に失礼いたしました。

ご挨拶の後、参加者が思い思いに近況報告、会社のPR等。取り留めのない、にぎやかな放談会となりました。本年の総会もこんなことで無事終了いたしました。あり



がとうございました。

さて、名古屋には、うまい物があるのでお教えしたい。

昨年、「向陽4号」東海支部便りにて「わかしゃち」編集部が紹介した「ひまつぶし」(うなぎ料理)である。

この料理、数年前までは熱田神宮の内にあった老舗のうなぎ屋の専売であったようだが、近年、名古屋の街中でこの看板を見るようになった。そんな看板の掛かったうなぎ屋に入り注文をする。

程なく、一人前の「おひつ」に三点の薬味セット(キサミノリ、ネギ、ワサビ)を添えて、漬物と共に運ばれてくる。先ず「おひつ」のふたをとる。暖かいご飯に、うなぎの蒲焼が細切にして一面にまぶしてある。茶碗に一杯目を装い食べる。普通の「うなぎ」の味である。

二杯目、今度は薬味のノリとネギを添えて食べる。ノリの香とネギのさっぱり感と、うなぎのコクが程良く混ざり、正に三位一体、ひと味違ったうなぎ料理となる。

二杯目の終わる頃、店員が小さな土瓶を運んでくる。三杯目の御飯の上に薬味のワサ

ビを適量乗せ、余っておればノリ、ネギも乗せる。これに土瓶の熱い湯(だし汁)を掛ける。うなぎのお茶漬風料理である。これが意外とさっぱり味で三杯目という重さも、抵抗感もなく腹に入る。いずれにしても、これを「一匹のうなぎを三通りの違った味で食べさせる名古屋食文化の粹」と見るか、また「一匹のうなぎを三回に分けて異なった馳走を食べた気」にさせる名古屋人のケチ思想の発露」と見るかは食べてからのお楽しみ。

先ずは百聞は一見、いや、一食にしかず。二〇〇五年、愛知万博開催、中国国際空港開港前に、是非一度お試しあれ。

関西支部

関西支部長 川崎美栄子

(42回生)

関西支部では二〇〇二年一月一八日に支部の幹事会を阪急グラントヒルの土佐料理「司」で開催、支部長の永野元玄氏が、おしまれながらも今期で勇退を表明、関西支部

の立て直しに貢献されたこの四年間を振り返り、皆さんの酒杯も傾きました。

そうして三月二三日、リッツカールトンホテルでの関西支部総会では、突然の土佐高校、池上校長の就任が報告されるとともに、関西支部長には私、川崎美栄子が承認されました。「これからは女性の時代」という永野先輩の声に押されてがんばりたいと思います。

総会はなごやかに、恒例のよさこい鳴子踊りも今年は手際よく、映画「およう」の宣伝の関本幹事ゆかりの関本都夫監督みずからが、主題曲を歌う美しい歌手ともども訪れて、しばし夢二の世界に酔ったという次第であります。

酒肴はホテルが高知のたたきに負けじとばかりに作った土佐皿鉢料理に依光から取り寄せた竹輪に飾りかまぼこ、土佐の冷酒も加わって、最後はかつお茶漬けまで出てくるという演出が心憎いまで。

月変わって四月二三日。反省の幹事会が同じく「司」で行われ、二〇〇三年の総会は幹事長が最近赴任された神戸ホテル・オークラにて一月最



終土曜日に行くということ、長年、事務局として多大なご負担をおかけした中山真智子さんの、経理部分のみを切り離し三二回山下成子さんに協力願うこと、各地の総会への派遣者を決めて有意義に閉会いたしました。

「なんぶう」の編集を41回鎌田振吉さんに昨年お願いしたこともあわせて関西支部の体制がいっそう強化されました。今年はず年の「なんぶう」の発行の遅れを取り返そうと一同張り切って位置に着いた次第です。

広島支部

門田 佳代

(49回生)

私が高知で暮らしたのは、人生で最もきらめく青春時代の中学二年から高校三年までのたった五年間でした。しかし、この五年、特に土佐高校での三年は私に性格形成の上で良い意味で多大な影響を与え、高知なしには私のこれまでは語れないほどです。

とはいえ、ここで生まれたのでも、親や親戚がいるわけでもないのに、高知の人間面して同窓会の席にいるのは何だかあつかましい気がして、最初は、編入生だったあの頃と同じように縮こまっていた私でしたが、十回近くも顔を出すうちに同窓会広島支部の名簿整理のお役を仰せつかるほどになってしまいました。それというのも、広島支部が40・41回生の役員を中心にそれは家庭的な雰囲気、座席の組み合わせ、スピーチの方法など主席者への心配りの大変行き届いた暖かい会だったからです。毎回企画される

多方面でご活躍の先輩方の講演も主婦の私など日頃聞く機会のない分野のお話でもとても楽しみ。時には、昨年の高知大学の山本浩史先生(26回生)の講演のように、担任だった得竹先生以来の物理のお話、あの頃よりは向学心もでき、(得竹先生ごめんさい)ひよっとして解るようになっていくかも……という私自身への愚かな期待は見事裏切られました。それはそれ、すばらしい先輩を持った誇りで、自分も偉くなったような気分、大満足です。

昨年は、本部から来てくださった39回生の森木房江さんのこれぞ土佐のキャリアウーマンというべき女性としてのすばらしい生き方に接することができたことも大いなる収穫でした。

収穫は同窓会の二次会でも得ることが出来ます。場所はホテルのカラオケ会場でありながら、三年位前から誰もマイクを持たず、内緒で持ち込んだつまみを広げて、水割りや飲みながら諸先輩方を中心に懇談会。二時間などあつという間。普段の生活では決してお会いすることのない方面

の方々、異世代の方々とお話しすることのなんと新鮮なこと。同じ土佐校で学んだそれだけで、こんなにもうちとけて、話せるのかと同窓会の良さをしみじみ感じます。それだけわが母校も卒業生も魅力あるものだったのだと、今更ながら土佐校の卒業生であることを誇りに思うのです。

先日、関西支部の報告会と称して役員会がありました。百年委員会について広島支部はどう取り組むかという話がこれからの土佐校はどうあるべきかの話となり、すっかり熱が入ってしまいました。我が子の学校の事以上に真剣に考えている自分に思わず苦笑してしまいました。

こんな和気あいあいの広島支部の今年の開催は一〇月二六日です。皆さん秋の観光を兼ねて同級生に会いにいらっしやいませんか? お待ちしています。

香川支部

事務局長 武山 正人

(40回生)

高知ならびに全国の同窓会



の皆様! こんにちは。讃岐高松から香川支部の近況をご紹介します。香川支部では七月の第一土曜日を総会日と決めています。昨年も七月七日にJ.R高松駅前のホテルニューフロンティアで、総会ならびに懇親会を開催致しました。香川支部の総会は「畳に座ってじつくりとことんやる(飲む)」のが恒例です。当日は、森本教頭をはじめ同窓会本部から大久保副会長と岡内幹事長、また他支部からは鶴和前事務局長(関東)、南事務局長(東海)、山下幹事(関西)、沖支部長(広島)など多くの皆様に御臨席を賜

り、誠にありがとうございます。おかげさまで、盛大な総会を開催することができ、事務局としてもほっと胸をなで下ろしているところです。さて、香川の最近の様子をご紹介しますと、ご承知の通り本四架橋の完成後、高速自動車道の延伸・整備工事が四国各地で行われ、土佐の須崎から讃岐の高松市中心までが一本の高速道で結ばれようとしています。また、連絡船の発着場であったJ.R高松駅周辺も様相が一変し、格好のデパートスポットとなっていくようです。ただ、このようなインフラ施設は良いのですが、長引く不況から、物流や観光ともに低迷しており、肝心な香川県民に活気ある姿が取り戻せるかが問題のようです。

そんな中、香川に住む土佐高卒業生はどうかというと、驚くほどとても元気なのです。支部会員は二〇〇名程度とわずかですが、総会には例年三〇〇名は集まり、セレモニーから始めても、すぐに懇親会に突入するのはいつものこと。酔うほどに「おんしやあ、今どうしゅうぜよ」「そ

(次頁つづく)

れがにやあ...ながよ」とお決まりのフレーズが年代を越えて飛び交います。お開き後も、「どこか、えい店しらがなかあ」とのリクエストが多く、今土佐ゆかりの粋な店を探しているところ。高知ならびに全国の同窓生の皆さん、一度瀬戸の都、讃岐高松での支部総会にぜひお越し下さい。

二〇〇一年度 物故者名簿

(二〇〇二年六月一日現在)

会員

- 平 13・5・5 池内 祐子 (34 S)
- 14・2・22 進藤 貞和 (3)
- 13・9・16 宇都宮泰英 (34 O)
- 14・2・10 安田 準一 (15)
- 14・1・26 森田 淳二 (36 T)
- 14・3・10 松崎 淳 (33 T)
- 13・4・28 藤井 香織 (34 T)
- 13・6・17 松田 仁作 (14)
- 13・6・14 坂東 啓嗣 (60 H)
- 13・8・9 橋詰 英昭 (40 S)
- 石本 齋 (28 L)
- 12・11・26 猪石 光興 (23)
- 12・11・26 伴 正一 (17)
- 14・6・13 北添 眞一 (46 T)
- 14・6・16 久保内貞行 (20)
- 旧職員
- 平 13・1・22 依光 幸夫 (28 L)

本部 活動 報告

幹事長 安岡 範悦 (39回)

平成十三年八月四日の土佐中・高等学校同窓会総会で幹事長にご選任頂きました39回生の安岡範悦でございます。

私事になりますが、昭和四三年四国銀行に入行。最初の仕事は土佐中・高校授業料の集金でした。当時は各教室に集金に伺っており、最初の教室は、かつて担任としてお世話になった「カマス」こと吉本要先生が授業中でした。

「四国銀行です。宜しくお願います」と言ってお廊下で集金を始めましたが、生徒が笑

います。耳を済ませると授業を中断している吉本先生が「あそこで集金している男はおまさんらーの先輩で安岡と言おう、わりことをした珍な男ですら」と楽しそうに話をしていました。爾来、土佐高への集金、先生方への預金勧誘にと六年間土佐高校を徘徊すると共に同窓会の役員末席に名を連ね今日に至りました。

校長先生歓送迎会

二〇〇二年六月二八日 於 高知第一ホテル

第六代校長として平成三年以来十一年間にわたり多大な尽力を賜りました森田幸雄先生が退任され、本年四月より第七代校長として、池上武雄先生をお迎えしました。創立百年に向けて更なる前進ができるよう、両先生の歓送迎会を開きました。



にあたり池上会長より三つの基本的考え方の披瀝があり、その実践に向けての努力を求められております。

一つは土佐高の存在意義、教育方針、運営方法などを改革の視点で検討する理事会直轄の会である百年委員会、先生方の研修を企画・実施し、他の学校見学や生徒の実態調査等を検討するTSSL委員会を同窓会として全面的にサポートし、生徒が集まる魅力ある土佐高づくりに協力をする。

二つ目は同窓会の財務の強化改善に取り組み同窓会をさらに活性化させる。三つ目は役員が積極的に意見を出し合い、なかよく協力一致して運営にあたる。

「変える勇氣、変えない冷

編集 後記

同窓会本部総会は八月三日に催されます。新校長への期待が高まる中、同窓会会長でもある池上校長先生を中心に、同窓会が一体となり、百年・二百年と突き進んでいきたいと思っております。洗濯機に例えて、学校は洗濯機本体。校長先生

静さ、その二つを見極める智慧”を出しあいながら微力でございますが努力を致したいと考えております。各支部役員の皆様、同窓会諸兄弟の皆様のご指導ご協力をお願い致します。

新役員体制

- 会長 28 回生 池上武雄
- 副会長 32 回生 溝渕真清
- 35 回生 中橋一郎
- 39 回生 森木房恵
- 40 回生 横田整二
- 42 回生 川崎康正
- 39 回生 安岡範悦
- 47 回生 永野和宏
- 48 回生 岡田容典
- 61 回生 西山彰一
- 58 回生 宮地貴嗣
- 32 回生 千頭 裕
- 40 回生 森木将雄
- 田中章夫

はパルセーター(回転翼)、衣類が在校生、洗剤が教職員の方々となると、パルセーターの力強い動きにつれ、全体が一層大きく動いていく必要があります。皆様のご協力をよろしくお願い致します。(川崎 康正)